

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400543		
法人名	医療法人社団荒尾クリニック		
事業所名	グループホームあらかお 1階		
所在地	熊本県荒尾市荒尾539番地1		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが流行してから、法人内の施設の中で一度も入居者の感染者は出しておらず、法人で積極的にワクチン接種の推奨を家族に働きかけ、理解していただき、ご家族や職員と協力して感染者を出さなかった事は一つアピール出来る点かと思う。これからも隣接の病院と連携し感染者の情報やご家族と協力し、入居者の安全に努めていきたい。前回から2名程、看取りを行い10年以上勤める介護職員を中心にご本人や家族を支援した。家族に安心して頂いた点は、これからの職員の良い経験になったと思う。また入居者のペースに合わせる様、婦長の指導もあり食べたくない入居者には食事の時間をずらしたり、起きたくない入居者には起床時間を送らせて介護を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して22年という流れの中で、各ユニットとともに職員の気づきや入居者の現状を踏まえたハード面での改装等が入居者の落ち着いた生活や会話の広がりとして生かされ、健康面での徹底した体制が感染者を出さなかったことは、理念に謳う「毎日の生活が快適に…」の実践として上がられる。外出の制限の中で、庭先で草花を愛でたり、箱作りに精を出す入居者、入居者同士が寄り添いながらの日光浴等、職員は今出来ることに焦点を当て支援している。高齢化(平均92歳)や重度化傾向(平均介護度3)という現状にあり、「げんき便り」による家族への情報発信は室内へ入ることが難しい家族の不安軽減として生かされている。ホームでの最終章を望まれる家族の思いに応えるホームは、管理者を中心として意思疎通の良い関係が築かれている。これまで築き上げてきた地域住民との交流の再始動に向けた取り組みに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ過で入居者の方が寂しい思いをしない様に窓越し面会、時には面会を再開し、このコロナ過の中で一人も感染者を出さずに過ごす事が出来た。これもご家族の皆さんや地域の人達と協力出来たものだと思う。	家族や地域の方と協力し、毎日の生活が快適に送れるように…とする理念は、運営推進会議やパンフレットにて啓発し、申し送り時の唱和により職員同士が意識強化を図っている。コロナ禍という状況にあっても、家族の協力や理解により感染しなかったことが理念の実践であるとしている。	職員の寄り添いや温かいケアとともに、感染者を出さなかった事は職員自身も含め、入居者の健康面や食事等の体制が徹底された賜物である。次のステップとして理念を振り返り、目標等を立てることで更に理念の具体化に繋がると思われ、検討頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で子供会の夏休みラジオ体操等、参加を見送って来たが今後参加可能になった場合、区長さんに連絡をもらったり聞いた。面会に関しても窓越しのみに限らず、面会も再開して知り合いの方との繋がりを途切れないようにした	地域の中で培ってきた関係は盤石であり、これまでの地域との関係が途切れないう様に子ども会の担当者をリサーチしたり、夏休みのラジオ体操等も打診されているがこの夏は中止としている。	協力的な区長等の存在が今後の地域の中での生活拡充に生かされることと大いに期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地区の行事に参加していないが、運営推進会議を通じて、認知症の事や事業所の内容を報告している。以前より質問も増え、事業所の内容や取り組みを理解して頂けていると思う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて参加者からの質問も増えてきた。現在は報告にとどまっていることが多いが、参加者から意見が出ることは行政からが多く地域の方からの意見が出る機会が少ない。今後も地域の方への意見が出るように努めたい。	理念の啓発の一環とする運営推進会議では、利用者の状況、事故・ヒヤリハット、研修会及び勉強会の報告等とともに質疑応答を行っている。地域からのお尋ねや問い合わせもあるものの、意見等は少ないとの事である。家族は代表の参加となっており、議事録は玄関に配置し開示し、身体拘束等適正化委員会の内容も報告している。	会を重ねる毎に形骸化しやすくなる傾向もあり、ホームや地域への情報発信源としてこの会議を生かして頂きたい。地域住民の参加は、地域での生活拡充に更に繋がることと思われ、地域の情報をリサーチする機会とされると良いでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年より行政の担当者が異動し変更になったが今後も、分からない事などは素直に訪ねて関係を築いて行くことに努めたい。ケアマネは更新時に市役所に出向いたり、審査会の内容を聞いたり貰いに行き関係を築いている。	集団指導への参加や、構造変更を問い合わせ、変更届を提出して畳のコーナーをフローリングへ変えている。また、産休の為の食事提供についての相談等不明な点は行政に尋ねながら進めている。介護認定の審議会内容等も尋ねながら、ケアプラン作成に生かす等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 身体拘束廃止や虐待について全職員に書面により認識や勉強会を開催し意識強化に努めている。しん+14:17	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開き職員に周知している。コロナ過で施設単位で行っているが今後は法人全体に広めて拘束をしないケアを作りたい。また入居時には拘束をしない旨を家族には説明している。	身体拘束廃止や虐待について全職員に書面により認識を深め、勉強会を開催し意識強化に努めている。身体拘束適正化委員会により事例等を通して話し合い、スピーチロック等グレーゾーンも繰り返しの指導や職員同士も注意喚起している。転倒でのインシデント等を話し合いを重ねており、高反発マットを使用し転落した際の予防とする等拘束の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に関しては紙面開催を行う機会が多かったが今後は面会方式で行って行く予定。虐待に関して疑いがあった場合上司に相談し解決に繋がった例が有、注意を払った事が良い結果になり今後も防止委員会等を設置し注意していきたい		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する対象者が該当せず、制度を学ぶ機会としては少なかった。今後は後見制度に関しても学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一つ一つ丁寧に説明し、不明な点が無かったか尋ねて理解を得られるように努めている。また不明な点が後日あった場合などは電話にて対応したりして理解を得るように努めている。改定などがあった場合も連絡し理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方の方であれば、電話連絡にて要望を聞き対応している。入居者の要望があれば、直接対応したり、家族へ連絡し対応してもらっている。外出の要望に関してはコロナの事も有り、反映できていないのが現状である。	入居者には日々の会話の中から聞き取りし、家族からは訪問時等に意見や要望等を収集し、ケアサービスに反映させている。ホーム内に入ることが難しい家族への日常生活の情報発信源として“げんき便り”(2ヶ月毎)を発行し、家族からも電話による質問や要望等も多く(現状や食事量等)、個人記録に残している。家族との交流もまだ厳しい状況にはあるが、時期を見ながら家族との交流が出来れば良いと思われる。	ホームの室内へ入ることが難しい家族へ向けた“げんき便り”は、家族への安心感として生かされている。更に、入居者個々の状況をしたためて発信することで不安軽減に繋がると思われ、職員体制なども鑑みながら検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での意見は婦長や施設長に相談し、2人が相談して運営に反映している。また機材の購入等は上司から代表者に相談して購入したり、代表者には運営の意見を聞く機会を設けて貰っている。	管理者は日々のケアの中で、職員からの意見や提案を収集している。職員の意見によりフローリングへの改装や、備品の他、ハード面での気づきを運営者へ上申する体制としており、職員の意見を具体化している。管理者を中心とした意思疎通の良い関係性や産休・育児休暇等も整備されており、働きやすい環境が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格等は習得したら上司へ報告、資格証のコピー等は提出している。職員の産休等にも配慮している。労働時間以外の勤務は届出を施設長から提出し労働環境にも上司へ報告、改善して貰っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が各個人の力量を把握している為、各、長から研修の参加の促しを行っている。また各個人でも受けたい研修会があれば進んで参加して貰っている。年末には個人で参加した研修内容を上司へ報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等を通じて各施設間での交流できる場を持っている。勉強会等は施設長から各個人の力量を見ながら勉強会の参加の促しや、法人内でも必要な内容の研修等があれば進んで参加するように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してから職員が出来るだけ声掛けをし、分からない事や不安を払拭出来るように心がけている。またその他にはケアマネジャーが家族や本人に聞き取りをし、要望等を聞いて他の職員にも報告している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自分の親を入居させる事に一抹の不安を覚えている家族の方などには要望には出来るだけ応えて行き、不安を取り除ける様に、入所してからの近況報告をさせてもらったりして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が遠方に住んでおり、他病院受診などには他のサービスを利用できるようにアドバイスしたり、入居者の方が必要なサービスが受けられるように情報を提供したり、業者との間の仲介役を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の中には「仕事を下さい」と言われる入居者もおおり、洗濯物たたみや新聞折り、また食器拭き等手伝って貰っている。手伝って貰っている中でも、入居者の感性が見えたりして、より深く入居者の方の生き方が分かった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族様には元気新聞だけでなく、電話連絡して入居者の現状を報告したり、病気の事などは主治医のドクターから連絡を入れて貰ったりしている。また入居者の方を電話口に出して会話をしたり家族との絆を支える様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会の機会が少なかったが、少ない中でも入居者の親戚や妹等面会に来たときは窓越し面会を行い、職員が面会時には隣につき言葉が途切れない様に支援に努めた。	馴染みの場所への外出はまだ厳しい面もある中で、ホーム近くからの入居者やかかりつけ医の継続、携帯電話を持ち込み、窓越しに家族等と話に興じる入居者等これまでの関係が途切れない様支援している。また、家族の希望、協力により葬儀への参列等も叶えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が関わり会える様に、話が合うと方と同じテーブルにしたり、部屋の隣同士で話せる様にソファを置き入居者同士で会話できるスペースを用意したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠方の方で身寄りがこちらにいなかった等、契約が終了した場合でも、入院での状況等を報告したり、家族の方がこちらに中々来れない現状などに苦慮している時には話を聞いて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に、どの様な生活を望まれているかお聴きして意向確認を行っている。本人の意思表示が難しい方は日々の生活の中で表情や行動からご本人の思いを読み取る様に努め、合わせてご家族へ話を聞いている。	日々の会話の中で希望等を聴き取りする他、直接職員に「食べたいものや飲みたい」など訴えもある。職員は、発語困難や意思疎通等の他、視力等応じた会話や表情での把握やうなぐき、笑ってくださる様子をパロメーターとして推察し、家族からの情報も得ながら本人本位なるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族へ、家族構成や生活環境、生活歴等の聞き取りを行うと共に、居宅前任の介護支援専門員からの情報や、看護サマリー等を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を細かく観察し、有する能力や心身の小さな変化に気付けるように努めている。その変化に気付いた場合は、スタッフ全員が現状把握出来るように、送りノートや経過記録の覚え書きを活用して把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングと介護計画更新時に担当者会議を実施し、介護計画の見直しを行っている。状態の変化が見られる場合はその都度話し合いを行い経過を送りし、スタッフ間のケアの統一を図って介護計画書を作成している。	入居に当り家族の意向等を聞き取りし、職員間で話し合いを重ね、経過記録とプランの整合性を見極めている。日々の申し送り、毎月のモニタリング、定期的な見直し及び退院や心身の変化等に応じて追加を行う等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・食事量・排泄・日々の生活状況や支援等を個別の記録用紙に記入を行っている。また職員間での情報共有は送りや、送りノートを活用し情報の統一を図っている。それをもとに介護計画にも反映し実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族の代行で市役所の手続きを行ったり、介護タクシーの手配等、介護保険外のサービスを提案したり提供している。また法人内の保険外サービスを利用してもらえる様に提案等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来であれば、地域資源を活用し、外出や地域の子供達と交流する場を持ちたかったが、コロナの感染予防の観点から外出等が出来ていない。地域の理髪店等には来て頂き、入居者の散髪を行って貰った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科をはじめ、皮膚科、歯科等は入居時に聞き取りを行い、関係が途切れない様に支援している。予約の受信日が近くなれば、家族に連絡を入れたり本人の近況の情報を家族や医療機関に伝えたりして支援している。	法人の医療機関をかかりつけ医とされていた方も多く、現在主治医として定期的や必要に応じた受診を支援している。他科受診については家族の希望を聞き、家族の対応を依頼しているが、困難な場合はホームでも応じている。歯科については訪問診療も行われている。	母体医療機関と連携し、個々に応じた健康管理に努めている。今後も健康面の報告や薬の変更などがあれば、その都度家族へ伝える事で安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の異変等があれば、施設の看護師に連絡したり、不在であれば近隣の病院の看護師に連絡を入れ、入居者の健康管理に努めている。また看取りでの訪問看護師とは常に連絡を取り合い、訪問看護師より主治医に連絡を入れ適切な看護を受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院に入院した場合には看護師や主治医と情報を密にとり、スムーズに施設に戻って来れるように努めている。他病院に入院した場合には個人情報もある為、看護師連絡しても情報を教えてもらえないが、出来るだけ情報を得る為、ソーシャルワーカーと連絡したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態が変化していく事に、ケアマネジャー等と話し合いを行い、施設の看護師から主治医に、家族への説明を促して貰い、施設での現状や医療的な見解などを説明してもらっている。施設での支援は限界があるので、その都度家族に説明を行っている。	入居時に重度化・終末期支援に関するホームの方針を伝えている。ホームでの自然な看取りを希望される家族や、医療機関での対応を望まれる方がおられ、その時々で医師と相談しながら支援している。今年度2名の看取りを支援した際はコロナ禍にあり、医師の指示を受けながら家族との面会の機会を作り、支援後は本人を偲びながら振り返り、職員の不安については、経験を積んだ看護職員がサポートに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本、隣接の病院が主治医であり、隣接の病院に連絡することが多いが、以前、隣接の医師では無く救急車を呼んだ時に死亡確認し、遺体を動かせない時があった。施設の看護師を含めて救急車を呼ぶ場合の話し合いを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、法人の取り組みとしてBCPの取決めを実施中である。地域の方とは情報交換を行っており近くの避難場所を把握している。全職員には災害時における行動などの訓練が十分に出来ていないので引き続き考えて行きたい。	年2回の火災避難訓練を隣接する医療機関や有料施設と合同で実施している。1回目は総合訓練を行っており、2回目は通報を含めた訓練を11月に予定している。自然災害については机上で行っている。日々の安全チェックの他、コンセントの埃の確認などは火災訓練時にに行い、備蓄は食料を3日分と感染症備品を確保している。	事業継続計画(BCP)については、現在法人で作成段階であり、作成後は職員との共有を図られることを期待したい。近隣地域とは災害について情報交換が行われており、引き続き関係強化に努められる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化検討委員会を通じて、高齢者の権利擁護が守られているかを検討し、職員にも勉強会等で確認を行っている。言葉使いや排泄での声掛け等プライバシーに配慮しているか等を検討している。	勉強会で拘束、人権尊重、プライバシーを確保した支援について振り返っている。また、不適切な介護に関する報道など事例をあげたり、トイレのカーテンを閉め支援するなどあらためて周知徹底を図っている。呼称は苗字や同姓者がおられる場合は下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれについても個々の希望やこれまでの生活習慣が継続できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で洋服の希望を訴える方がおり、朝や、入浴時に本人の希望する洋服を提示出来るように努めている。希望が無い方でも「洋服はこれでいいですか？」等問いかけ、本人の意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者全員の希望に沿って支援出来てはいないが、施設での生活の中で、本人が過ごしやすい様に心がけている。自室で好きなTVを見たり、各々好きなソファで過ごしたり、隣室の方と好きな時間までソファで話したりして、好きに過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の今までの生活歴の中で、乳液や化粧水を使っている方は施設でも使用されていたり、ご自分で髪の毛を整えたり、できない方は職員が支援して身だしなみや服装の希望を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の中で肉類が苦手な方がおり、出来るだけ肉が入らない様に努めたり、誕生日に本人が好きな甘い物を提供したり、本人が朝好きな牛乳やR-1を施設でも継続して提供している。準備等は入居者の方とは中々できていない状態である。	献立は季節感に配慮しながら職員が立てており、食材は業者と地域の専門店(米・精肉・鮮魚)から配達されている。これまで調理全てホームで行ってきたが、職員配置の面から副菜のみ調理済みのものを使用する予定である。入居者が調理に関わる機会は殆ど無いが、味の評価を職員とやり取りされている。また職員1名が検食を摂っており、気付きを調理に生かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夜勤者から尿パットにて排尿が少なかった場合は翌日の水分摂取量を注視し、水分補給に努めたり、甘いジュース等に変えて水分を摂ってもらうように心がけている。栄養状態は看護師が血液検査の状態を把握し医師と相談、施設提供以外の食品、補助食品も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘導したり、介助、声掛けを行っている。ケアが難しい方にはスポンジブラシを使用し清潔保持に努めている。ケアを行って、口腔内に異変があれば歯科のドクターや主治医に相談し治療に繋げた事例もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の生活歴や施設での排泄習慣から、布パンツに変更した事例も有り、自立に繋げる努力をした経緯もある。また夜間はトイレを使用しているが日中は出来るだけトイレを使用して頂くように誘導に努めている。時間事にも誘導を行っている。	入居者個々に排泄用品を含めた支援方法を検討している。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられる。紙パンツから布パンツへの変更や眠剤の使用を減らし夜間のポータブルトイレを安定して使用されるようになった方など改善の方向へと支援している。排泄用品はホームで準備しているが、家族による購入もあり職員と対面する機会でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から排便の記録を個人毎に記載しており、-3日目には坐薬や薬を使用し便秘の予防に努めている。また食事でもヤクルトやバナナジュースを定期的に飲んでもらい便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態に合わせてスタッフ2名にて対応したり、入浴時間は午前中と定めているが、入居者の状態や拒否があれば翌日に変更したりして介助を行っている。失禁等があれば曜日に関係なく清潔保持の為、入浴介助を行っている。	週2~3回の入浴を午前を中心に、心身の状態に応じ職員2名体制で安全面に配慮して支援している。浴槽に入れる方もおられるが、身体状況からシャワーチェアを使用される方も多くなっている。入浴を拒否をされる場合は時間をずらし再度声を掛けたり、翌日に変更している。また、体調がすぐれない時は清拭で清潔保持に努め、冬場は入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が好きな時間に部屋に戻り、横になったりTVを見たり、またソファで隣室同士で話したり横になったりと気持ちよく休める様に努めている。またトイレがある部屋には消臭剤を目立たない所に配置し環境にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病状を把握し、大切な薬剤などには看護師をはじめ、管理者も効能を把握し、服薬の大切さを理解している。分からない時は他スタッフは上司に訊ねその時々に応じて教えている。また眠剤等は医師が処方しても効きすぎていると判断し場合は看護師と相談して服用しない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋や競馬、また相撲や野球が好きな入居者がおり、自分でそれを楽しみたいときには自室に帰り各個人のTVを見て過ごしたりして気分転換を行っている。職員で趣味の話が通じる場合は話し相手になり気分転換の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染の恐れから、外出等は遠慮して頂いているが、他の病院受診は同法人の私費ヘルパーを利用したりして継続している。外出できない分、中庭での散歩や廊下での歩行訓練だったり、季節も良くなり中庭での外出を支援していきたい。	外に出る事を喜ばれる方もおられるが、外出を控える状況が続いていることもあり、入居者の「外に出たい」という意欲も少なくなっているようである。身内の葬儀への参列を家族が希望された際は、主治医の同意のもと参列されている。管理者はドライブなどの外出が出来ない分、中庭での散歩など出来る事から取り組みたいとしている。	室内での生活が中心であった事により外出への意欲もなくなりつつあり、外出したいとの思いを引き出す工夫に期待したい。入居前には国内外の旅行を楽しまれていた方もおられ、ビデオやDVD等を活用し旅行気分を味わうような取組も良いと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、入居者の高価な物はあずからない様にしてはいるが、中にはお金があった方が落ち着く方もいるため、そういった方には家族と相談しお金を所持して頂いている。紛失した場合でも大丈夫な様に家族と事前に伺っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には携帯電話を所持している方もおり、充電や携帯の使い方を一部支援して会話のお手伝いを行っている。また持っていない方で電話を希望する方には事務所で電話のお取次ぎ等を行い支援している。手紙も読み聞かせを行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナが5類に変わって、1階のレイアウトを変更を行った、行った結果、入居者同士の挨拶や会話も増えたように思う。またソファには各々好きな場所があり、入居者同士で談笑している。玄関には花瓶に定期的に花を差して季節感を出し、花壇にも花を植え替えをし居心地良い空間作りに努めている	コロナ5類移行レイアウトの変更により、フローリングへの改装により入居者同士の会話の場として生かされている。また、換気や掃除、消毒の徹底を継続し、集いの場であるリビングの温度設定は、入居者にも尋ねながら調整を行っている。ホールでは広告紙でゴミ箱づくりや洗濯物たたみに意欲的に取り組まれる方もおられ、他の入居者にも刺激となり数人で作業に精を出される光景が見られるようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で好きなTVを見たいときには各個室に戻りTVを見て過ごしている。またソファで気の合った入居者と共に座り談笑している。それに他の方も加わり会話するのが見られ、継続して居心地の良い空間づくりに努めていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には各個人が家で使用されていた物を、持参可能な旨を家族に伝えている。また自宅でレンタルしていた介護用品も、当施設で使用できないか交渉し、私費でレンタル出来るようにし家と同じように介護用品を使って安心して貰っている。	入居時に必要な衣類などの準備品の他、今まで自宅で使用していた馴染みの品の持ち込みを伝えている。テレビを持ちこみ好きな番組を見たり、携帯電話は家族との連絡以外にも、コロナ禍には窓越し面会でのやり取りにも使用されている。衣類の管理は職員が中心に行っているが、季節に応じた衣類や寝具の交換を家族に直接伝える方もおられる。自宅で使用していたポジショニングバーを継続して使用する等家族と連携し、職員が検討を重ねながら安全で居心地の良い居室環境に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方には、「仕事を下さい」と言われる入居者の方もおり、洗濯物たたみ等を手伝って貰っている。また入居者の筋力低下を防止する為に廊下での歩行訓練やトイレでの排泄を心がけ支援に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400543		
法人名	医療法人社団荒尾クリニック		
事業所名	グループホームあらお 2階		
所在地	熊本県荒尾市荒尾539番地1		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが流行してから、法人内の施設の中で一度も入居者の感染者は出しておらず、法人で積極的にワクチン接種の推奨を家族に働きかけ、理解していただき、ご家族や職員と協力して感染者を出さなかった事は一つアピール出来る点かと思う。これからも隣接の病院と連携し感染者の情報やご家族と協力し、入居者の安全に努めていきたい。前回から2名程、看取りを行い10年以上勤める介護職員を中心にご本人や家族を支援した。家族に安心して頂いた点は、これからの職員の良い経験になったと思う。また入居者のペースに合わせる様、婦長の指導もあり食べたくない入居者には食事の時間をずらしたり、起きたくない入居者には起床時間を送らせて介護を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ過で入居者の方が寂しい思いをしない様に窓越し面会、時には面会を再開し、このコロナ過の中で一人も感染者を出さずに過ごす事が出来た。これもご家族の皆さんや地域の人達と協力出来たものだと思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で子供会の夏休みラジオ体操等、参加を見送って来たが今後参加可能になった場合、区長さんに連絡をもらったり聞いたりした。面会に関しても窓越しのみに限らず、面会も再開して知り合いの方との繋がりを途切れないようにした		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地区の行事に参加していないが、運営推進会議を通じて、認知症の事や事業所の内容を報告している。以前より質問も増え、事業所の内容や取り組みを理解して頂けていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて参加者からの質問も増えてきた。現在は報告にとどまっていることが多いが、参加者から意見が出ることは行政からが多く地域の方からの意見が出る機会が少ない。今後も地域の方への意見が出るように努めたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年より行政の担当者が異動し変更になったが今後も、分からない事などは素直に訪ねて関係を築いて行くことに努めたい。ケアマネは更新時に市役所に出向いたり、審査会の内容を聞いたり貰いに行き関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開き職員に周知している。コロナ過で施設単位で行っているが今後は法人全体に広めて拘束をしないケアを作って行きたい。また入居時には拘束をしない旨を家族には説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に関しては紙面開催を行う機会が多かったが今後は面会方式で行って行く予定。虐待に関して疑いがあった場合上司に相談し解決に繋がった例が有、注意をはらった事が良い結果になり今後も防止委員会等を設置し注意していきたい		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する対象者が該当せず、制度を学ぶ機会としては少なかつた。今後は後見制度に関しても学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一つ一つ丁寧に説明し、不明な点が無かったか尋ねて理解を得られるように努めている。また不明な点が後日あった場合などは電話にて対応したりして理解を得るように努めている。改定などがあった場合も連絡し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方の方であれば、電話連絡にて要望を聞き対応している。入居者の要望があれば、直接対応したり、家族へ連絡し対応してもらっている。外出の要望に関してはコロナの事も有り、反映できていないのが現状である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での意見は婦長や施設長に相談し、2人が相談して運営に反映している。また機材の購入等は上司から代表者に相談して購入したり、代表者には運営の意見を聞く機会を設けて貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の資格等は習得したら上司へ報告、資格証のコピー等は提出している。職員の産休等にも配慮している。労働時間以外の勤務は届出を施設長から提出し労働環境にも上司へ報告、改善して貰っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が各個人の力量を把握している為、各、長から研修の参加の促しを行っている。、また各個人でも受けた研修会があれば進んで参加して貰っている。年末には個人で参加した研修内容を上司へ報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等を通じて各施設間での交流できる場を持っている。勉強会等は施設長から各個人の力量を見ながら勉強会の参加の促しや、法人内でも必要な内容の研修等があれば進んで参加するように促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してから職員が出来るだけ声掛けをし、分からない事や不安を払拭出来るように心がけている。またその他にはケアマネジャーが家族や本人に聞き取りをし、要望等を聞いて他の職員にも報告している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自分の親を入居させる事に一抹の不安を覚えている家族の方などには要望には出来るだけ応えて行き、不安を取り除ける様に、入所してからの近況報告をさせてもらったりして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が遠方に住んでおり、他病院受診などには他のサービスを利用できるようにアドバイスしたり、入居者の方が必要なサービスが受けられるように情報を提供したり、業者との間の仲介役を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の中には「仕事を下さい」と言われる入居者もあり、洗濯物たたみや新聞折り、また食器拭き等手伝って貰っている。手伝って貰っている中でも、入居者の感性が見えたりして、より深く入居者の方の生き方が分かった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族様には元気新聞だけでなく、電話連絡して入居者の現状を報告したり、病気の事などは主治医のドクターから連絡を入れて貰ったりしている。また入居者の方を電話口に出して会話をしたり家族との絆を支える様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会の機会が少なかったが、少ない中でも入居者の親戚や妹等面会に来たときは窓越し面会を行い、職員が面会時には隣につき言葉が途切れない様に支援に努めた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が関わり会える様に、話が合うと方と同じテーブルにしたり、部屋の隣同士で話せる様にソファを置き入居者同士で会話できるスペースを用意したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠方の方で身寄りがこちらにいなかった等、契約が終了した場合でも、入院での状況等を報告したり、家族の方がこちらに中々来れない現状などに苦慮している時には話を聞いて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に、どのような生活を望まれているかお聴きして意向確認を行っている。本人の意思表示が難しい方は日々の生活の中で表情や行動からご本人の思いを読み取る様に努め、合わせてご家族へ話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族へ、家族構成や生活環境、生活歴等の聞き取りを行うと共に、居宅前任の介護支援専門員からの情報や、看護サマリー等を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を細かく観察し、有する能力や心身の小さな変化に気付けるように努めている。その変化に気付いた場合は、スタッフ全員が現状把握出来るように、申送りノートや経過記録の覚え書きを活用して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングと介護計画更新時に担当者会議を実施し、介護計画の見直しを行っている。状態の変化が見られる場合はその都度話し合いを行い経過を申送りし、スタッフ間のケアの統一を図って介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・食事量・排泄・日々の生活状況や支援等を個別の記録用紙に記入を行っている。また職員間での情報共有は申送りや、申送りノートを活用し情報の統一を図っている。それをもとに介護計画にも反映し実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族の代行で市役所の手続きを行ったり、介護タクシーの手配等、介護保険外のサービスを提案したり提供している。また法人内の保険外サービスを利用してもらえる様に提案等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来であれば、地域資源を活用し、外出や地域の子供達と交流する場を持ちたかったが、コロナの感染予防の観点から外出等が出来ていない。地域の理髪店等には来て頂き、入居者の散髪を行って貰った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科をはじめ、皮膚科、歯科等は入居時に聞き取りを行い、関係が途切れない様に支援している。予約の受信日が近くなれば、家族に連絡を入れたり本人の近況の情報を家族や医療機関に伝えたりして支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の異変等があれば、施設の看護師に連絡したり、不在であれば近隣の病院の看護師に連絡を入れ、入居者の健康管理に努めている。また看取りでの訪問看護師とは常に連絡を取り合い、訪問看護師より主治医に連絡を入れ適切な看護を受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院に入院した場合には看護師や主治医と情報を密にとり、スムーズに施設に戻って来れるように努めている。他病院に入院した場合には個人情報もある為、看護師連絡しても情報を教えてもらえないが、出来るだけ情報を得る為、ソーシャルワーカーと連絡したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態が変化していく事に、ケアマネージャー等と話し合いを行い、施設の看護師から主治医に、家族への説明を促して貰い、施設での現状や医療的な見解などを説明してもらっている。施設での支援は限界があるので、その都度家族に説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本、隣接の病院が主治医であり、隣接の病院に連絡することが多いが、以前、隣接の医師では無く救急車を呼んだ時に死亡確認し、遺体を動かさない時があった。施設の看護師を含めて救急車を呼ぶ場合の話し合いを行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、法人の取り組みとしてBCPの取り決めを実施中である。地域の方とは情報交換を行っており近くの避難場所を把握している。全職員には災害時における行動などの訓練が十分に出来ていないので引き続き考えていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化検討委員会を通じて、高齢者の権利擁護が守られているかを検討し、職員にも勉強会等で確認を行っている。言葉使いや排泄での声掛け等プライバシーに配慮しているか等を検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で洋服の希望を訴える方がおり、朝や、入浴時に本人の希望する洋服を提示出来るように努めている。希望が無い方でも「洋服はこれでいいですか？」等問いかけ、本人の意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者全員の希望に沿って支援出来てはいるが、施設での生活の中で、本人が過ごしやすい様に心がけている。自室で好きなTVを見たり、各々好きなソファで過ごしたり、隣室の方と好きな時間までソファで話したりして、好きに過ごして頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の今までの生活歴の中で、乳液や化粧水を使っている方は施設でも使用されていたり、ご自分で髪の毛を整えたり、できない方は職員が支援して身だしなみや服装の希望を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の中で肉類が苦手な方がおり、出来るだけ肉が入らない様に努めたり、誕生日に本人が好きな甘い物を提供したり、本人が朝好きな牛乳やR-1を施設でも継続して提供している。準備等は入居者の方とは中々できていない状態である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夜勤者から尿パットにて排尿が少なかった場合は翌日の水分摂取量を注視し、水分補給に努めたり、甘いジュース等に変えて水分を摂ってもらうように心がけている。栄養状態は看護師が血液検査の状態を把握し医師と相談、施設提供以外の食品、補助食品も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘導したり、介助、声掛けを行っている。ケアが難しい方にはスポンジブラシを使用し清潔保持に努めている。ケアを行って、口腔内に異変があれば歯科のドクターや主治医に相談し治療に繋がった事例もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の生活歴や施設での排泄習慣から、布パンツに変更した事例も有り、自立に繋げる努力をした経緯もある。また夜間はトイレを使用しているが日中は出来るだけトイレを使用して頂くように誘導に努めている。時間事にも誘導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から排便の記録を個人毎に記載しており、-3日目には坐薬や薬を使用し便秘の予防に努めている。また食事でもヤクルトやバナナジュースを定期的に飲んでもらい便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態に合わせてスタッフ2名にて対応したり、入浴時間は午前中と定めているが、入居者の状態や拒否があれば翌日に変更したりして介助を行っている。失禁等があれば曜日に関係なく清潔保持の為、入浴介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が好きな時間に部屋に戻り、横になったりTVを見たり、またソファで隣室同士で話したり横になったりと気持ちよく休める様に努めている。またトイレがある部屋には消臭剤を目立たない所に配置し環境にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病状を把握し、大切な薬剤などには看護師をはじめ、管理者も効能を把握し、服薬の大切さを理解している。分からない時は他スタッフは上司に訊ねその時々に応じて教えている。また眠剤等は医師が処方しても効きすぎていると判断し場合は看護師と相談して服用しない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋や競馬、また相撲や野球が好きな入居者がおり、自分でそれを楽しみたいときには自室に帰り各個人のTVを見て過ごしたりして気分転換を行っている。職員で趣味の話が通じる場合は話し相手になり気分転換の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染の恐れから、外出等は遠慮して頂いているが、他の病院受診は同法人の私費ヘルパーを利用したりして継続している。外出できない分、中庭での散歩や廊下での歩行訓練だったり、季節も良くなり中庭での外出を支援していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、入居者の高価な物はあずからない様にしてはいるが、中にはお金があった方が落ち着く方もいるため、そういった方には家族と相談しお金を所持して頂いている。紛失した場合でも大丈夫な様に家族と事前に伺っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には携帯電話を所持している方もおり、充電や携帯の使い方を一部支援して会話のお手伝いを行っている。また持っていない方で電話を希望する方には事務所で電話のお取次ぎ等を行い支援している。手紙も読み聞かせを行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナが5類に変わって、1階のレイアウトを変更を行った、行った結果、入居者同士の挨拶や会話も増えたように思う。またソファには各々好きな場所があり、入居者同士で談笑している。玄関には花瓶に定期的に花を差して季節感を出し、花壇にも花を植え替えをし居心地良い空間作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で好きなTVを見たいときには各個室に戻りTVを見て過ごしている。またソファで気の合った入居者と共に座り談笑している。それに他の方も加わり会話するのが見られ、継続して居心地の良い空間づくりに努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には各個人が家で使用されていた物を、持参可能な旨を家族に伝えている。また自宅でレンタルしていた介護用品も、当施設で使用できないか交渉し、私費でレンタル出来るようにし家と同じように介護用品を使って安心して貰っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方には、「仕事を下さい」と言われる入居者の方もおり、洗濯物たたみ等を手伝って貰っている。また入居者の筋力低下を防止する為に廊下での歩行訓練やトイレでの排泄を心がけ支援に努めている。		